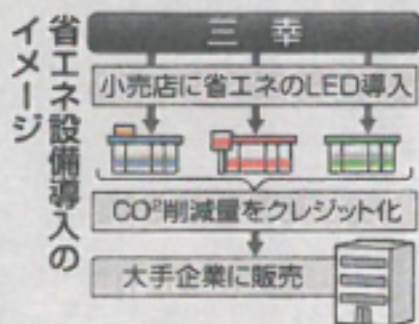


CO₂削減LED導入で
排出枠を販売

省エネ設備販売の三幸(浜松市中区)と顧客企業でつくるグループが、全国の小売店舗を対象に省エネに役立つ発光ダイオード(LED)の導入を進め、削減した二酸化炭素(CO₂)の合計量を販売可能な「クレジット」(CO₂排出枠)化する取り組みを始めた。グループは国の認証制度を活用して発足。工場などから排出するCO₂の削減を目指す大手企業への販売を進める。

(西山輝一)

国は温暖化対策の一環としてCO₂排出削減につながる省エネ設備などの導入を後押ししようと、CO₂削減量をクレジットとして認証する「J-クレジット制度」を設けている。制度に登録した事業者は削減量をクレジット化し、自前では目標通りにCO₂排出を減らせない企業や自治体などに、埋め合わせのための排



三幸など、国の制度活用

出枠として販売できる。

三幸は、主にCDや書籍などを扱うチェーンの小売店舗向けに、LEDなどの照明器具や空調設備を導入する事業を全国で展開している。このネットワークを生かしてクレジットの販売を始めようと、小売店舗を経営する顧客企業約十社と「三幸グリーン倶楽部」を設立し、今年二月に国からJ-クレジットの事業者として登録を受けた。既にLEDを導入している約百店

舗で、これまでに削減できた電力量をCO₂削減量に換算し、クレジット化して来春から大手企業に販売する計画だ。

クレジットを売却した利益の一部は、全国各地の環境団体に寄付する。三幸の大石泰亮社長(右)は「会員は中小企業だが、各店舗のCO₂削減量を合わせると大きな量になる。ネットワークを生かして今後も会員を増やし、環境活動に貢献できれば」と話す。



LEDを活用した小売店舗の省エネ化を進める三幸の大石泰亮社長(浜松市中区)